

◇令和6年／2024年9月号 第109号◇

會



報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高円宮妃殿下から「第41回産経国際書展」高円宮賞を受ける武富明子副理事長（8月20日、明治記念館）



産経新聞社
事業本部長
三 笠 博 志

次の10年へ。ともに挑戦を

この夏も記録的な猛暑が続きましたが、そんななかでも、8月に開催された第41回産経国際書展は多くの入場者を集め、好評を得ることができました。ひとえに関係する皆様のご尽力のおかげであり、厚く御礼申し上げます。初日の8月14日には高円宮妃久子殿下にも作品をご覧いただき、華やかな幕開けになりました。

産経国際書展は昨年40回の節目を刻み、今年は次の10年に向けた重要な第一歩でしたが、産経らしく、多彩で創造性に富んだ作品が並び、改めて大きな存在感を示していただきました。

また、現代モンゴル書壇を代表する書家の作品を紹介する招待展示や中国の清代から近代にかけて卓越した詩・書・画・篆刻を残した呉昌碩の生誕180年にちなんだ特別展示の前でも、多くの方が足を止めていました。非常に力強い第一歩となったといえます。

来年には、大阪で開催される「大阪・関西万博」の会場で「産経国際書展 大阪・関西万博展」を開催することが決まっています。産経国際書会の原点の一つは「書芸術の国際交流」による世界平和への寄与であり、万博での成功も産経国際書会のさらなる発展につながるものと確信しております。

今後も、産経国際書会が挑戦を続けられるよう、産経新聞社も皆様とともに力を合わせていきたいと思っています。



産経国際書会
理事長
高 橋 照 弘

新たな世界へ踏み出す第一歩

産経国際書会は8月14日から21日まで、本展とジュニア展を東京都美術館で開催しました。会員はもとより関係各位のご支援、ご協力の下、成功裏に終了できましたことに感謝し、お礼を申し上げます。

会員たちの作品には、書会の特徴である包容力と多様性が満ちあふれていました。それぞれが存分に個性を発揮しており、士気の高まりを感じ取ることができました。公募の作品は研鑽を積み重ねた努力の成果がよく表れており、将来の書会を担う若手の力の台頭を実感でき頼もしく思えました。

本展では2つの特別企画を実施しました。生誕180年記念「呉昌碩展」と関連作家の書画、もう1つは日本モンゴル文化協定50周年「モンゴル書壇」の作品展示です。呉昌碩の書画および関連作家の書画は個人蔵で、いまだ一般公開されていない貴重なものでした。来場者は文人の雅な世界に魅了され、堪能したことと思います。

一方の「モンゴル書壇」。日本でモンゴル書道に精通する人は少ないと思います。毛筆を用いたモンゴル語の書表現は、整然、流麗、大胆な筆致、構成などが新鮮で、今後の書作に資するものがあり、益するところとなりました。この企画は産経国際書会が国際を冠するにふさわしいものでありました。

41回展は書会が新たな世界へ踏み出す第一歩です。会員の皆さんの力を結集し、一步一步着実に歩みを進め、書会をさらに発展させていきましょう。今後も引き続き書会運営にご協力をお願いいたします。

第41回 産経国際書展

8月14日(水)～8月21日(水)
東京都美術館

第41回産経国際書展は8月14日から8月21日まで、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で開催された。総出品数は5801点を数え、コロナ禍前の高い水準を今年もキープ。会場は連日、大勢の来場者でにぎわった。

高円宮賞は武富明子副理事長、内閣総理大臣賞は松崎龍翠副理事長が受賞した。

開幕日には、高円宮妃殿下が鑑賞に訪れ、武富、松崎両副理事長をはじめ、主な受賞者たちに熱心に作品の意図などをお尋ねになり、充実した時間を過ごされた。

特別企画も充実。呉昌碩生誕180年にちなみ、呉昌碩と周辺作家の作品が展示されたほか、「現代モンゴル書壇」を代表する気鋭の書家9人によるモンゴル書道も披露された。

また、16回目を迎えた特別色紙展も開催。

高円宮妃殿下からいただいた御題の「進」「瞬」を会員(80歳以上)が揮毫した色紙55点が会場を彩った。芸能人・文化人も特別出品し、岡部まりさん、中山秀征さん、藤田三保子さん、松村雄基さん、矢野きよ実さん、円覚寺管長・横田南嶺師の書が並んだ。

関連イベントも充実。書道の楽しさや奥深さをその場で体感できる3つの興味深いイベントが開催された。

難解な前衛書道を鑑賞するコツが身に付く「－ いっしょう先生の前衛書講座 －『読めないsho 読めないsho』」(講師・町山一祥副理事長)は人気を博した。武富、松崎両副理事長による「揮毫会」も圧巻。特別賞の受賞者たちが自作に込めた思いを語る「ギャラリートーク」も書道ファンを喜ばせた。(事務局)

【来年度】第42回展

会期 令和7年8月14日(木)から8月21日(木)まで ※8月18日(月)休館

会場 東京都美術館 ロビー階と1階の第1～第4展示室、2階の第1、第2展示室(計10室)

贈賞式・祝賀会 展覧会会期中に明治記念館で実施予定。

※「2025産経ジュニア書道コンクール」も同会期に併催。東京都美術館 2階第3、4展示室(計2室)で実施されます。



開会式：左から渡邊麗理事長代行、高橋照弘理事長、竹澤玉鈴名誉顧問、飯塚浩彦産経新聞社会長、山下海堂最高顧問、原田圭泉名誉顧問、坂本香心理事長代行



制作秘話が満載のギャラリートーク



高円宮妃殿下(左)に自作を説明する高円宮賞受賞者・武富明子さん



8月14日午後1時オープン。賑わう会場

書道の楽しさを体験してもらおう

実行委員長 金丸鬼山



第41回展の出品作のレベルの高さは今年も言うに及びません。それ以上に私がここで指摘しておきたいのは、会期中の関連イベントの盛況ぶりです。コロナの猛威が落ち着きを見せたことで、第41回展では「揮毫会」「ギャラリートーク」「ワークショップ」が復活し、お子さんからお年寄りまで、大勢の来場者が楽しい時間を過ごしました。

いずれも来場者が書道の楽しさを実感できる得難い機会です。私たちは来場者と直接コミュニケーションを深めることができるほか、ひいては書道ファンを増やすことにも資する場ともなるだけに、復活の意義は大きいといえるでしょう。実際、来場者数も大幅に増加したようです。

難解ゆえに敬遠されがちな前衛書道を理解するコツを教えるワークショップ「ー いっしょう先生の 前衛書講座 ー 『読まないsho 読めないsho』」(講師・町山一祥副理事長)は出色の出来映えです。書道ファンにとどまらず、大勢の来場者の知的好奇心をくすぐり、きっと前衛書道への関心を高めてくれるだろうと信じています。

本展が成功裡に終了したことは、ひとえに各部の先生方のご努力の賜物であり、深く感謝申し上げます。



審査を終えて 「審・鑑・選」で輝く

審査本部長 勝田晃拓

「審」は廟に供える獣（生贄）の掌の形で、それに傷がないか綿密に検査するの意。「鑑」は水鏡でしっかり見ることで、「査」（調べ考える）によって「選」ばれた作品が会場で光輝くのだ。迅速、正確、安全性の高さを誇る新幹線同様、審査員に求められる要素はさらに公平性が加わる。

今回、初めて審査部責任役という逆の立場を仰せつかったが、進行具合や賞比率、最終決定時の判断など、課題は多く、経験値不足を痛感した。作品本位、新天地への挑戦が自社の利、好み、情性で歪められ、4Cの安全性を揺るがすことがあってはならない。次(回)発の『審・鑑・選』のぞみ42号、に期待したい。



一際華やいだ第41回展

来場者も大幅増

東京部会長 武富明子

産経国際書展は8月14日午後1時にあふれんばかりの人をお迎えしてテープカットを皮切りに華やかに開幕しました。午後には高円宮妃久子殿下がご来場され、大賞受賞者の作品の前でご歓談くださいました。また2024産経ジュニア書道コンクールも楽しそうにご覧いただきました。ご多忙のご公務の合間に沢山の

作品をご鑑賞賜わりまして誠に光栄に存じます。

会期中に関連イベントが多かったこともあり、ご来場者数も大幅に増えました。贈賞式・祝賀会は高円宮妃殿下にご臨席賜わり、会場は一際華やぎました。東京部会並びに会員の皆様には例年以上にご協力をいただき、心から感謝致します。



実感した運営の大変さ

搬出入部長 永田龍石

長年部長を務めていらした磯邊哲舟先生が今回は当番審査員という事で、代役として業務に携わりました。初めての搬出入でしたが、顧問の伊東玲翠先生はじめベテラン委員の先生方、表具店スタッフ、アルバイトの皆さんの共同作業にて翌日からの審査が出来るよう

に、作品整理・チェック・仕分けも無事に完了しました。

昨年までは、漢字、仮名、現代書、臨書の審査事務としてお手伝いし、今回搬出入も経験させていただき、本展運営の大変さを感じ、また書会のスタッフ並びに役員の先生方のご支援に心から感謝し御礼を申し上げます。



効果的なアイキャッチ追求

陳列部長 山本晴城

例年にない猛暑の続くお盆時期の8月13日と14日午前中、陳列が行われました。陳列部の先生たちは暑さをはねのけ、たくさんの作品をてきぱきと処理。紙の色、縦作品と横作品のバランス、フロア全体での位置づけ

など、細部に気を配りながら、効果的なアイキャッチを追求し、素敵なフロアができました。ご尽力いただいた先生方、表具店など関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



士気高く全力で集中

図録部長 青木錦舟

第41回本展の図録会議は例年通り積文会議を含め、7月の猛暑の中、4回行いました。部員一同、誠に熱心に集中した時間でした。初日には高橋照弘理事長が激励にいらして下さり、更に士気を高め、与えられた仕事に向き合いました。開始時間前から、昼食時も忘れ、専念しているメンバーの姿には感服するばかりです。

何人もの目で確認作業を行い、一人一人が少しでもその作品の良さを観て頂こうと、レイアウトや濃淡等、思いを込めていることをお伝えできたら幸甚です。いつもながら書会事務局、印刷会社のご担当者には、私達の無理な要望を取り入れていただき、深く感謝申し上げます。

第41回 産経国際書展 贈賞式・祝賀会



大勢の出品者が栄えある賞を受賞した



高円宮妃殿下のお言葉



祝賀会での乾杯

8月20日（火）、東京都港区の明治記念館で高円宮妃殿下をお迎えし、「第41回産経国際書展」贈賞式が開催されました。

公募、会友を対象とした第1部と、無鑑査会員、審査会員を対象とした第2部で構成され、

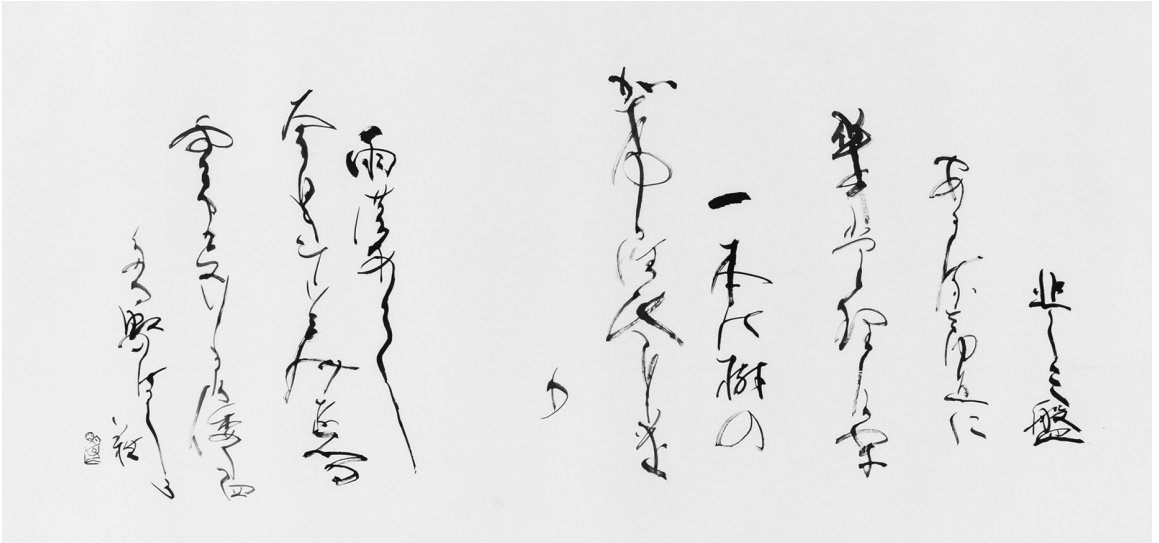
全国からお越しになった大勢の受賞者が壇上で表彰されました。

その後、祝賀会が行われ、久しぶりに顔を合わせる先生方も多く、旧交を温めました。

高円宮賞

武富明子 副理事長

向上心を持って先に進む



前登志夫 悲しみはあかるさゆゑにきたりけり...



喜びの言葉を述べる武富明子さん

この度、栄えある高円宮賞を賜りました。

受賞については、皆さまにたくさんのお世話をおかけしました。つくづく大変な荣誉ある賞をいただけたことに、心からおかげ様と感謝しております。誠にありがとうございます。

妃殿下からはもったいないお言葉を賜りまして望外の幸せに存じます。

今回出品した「短歌2首」は、短歌を2首連ねたもので、自然を捉える表現が素晴らしいと思い、題材に選びました。

紙については、実にはかならない、金・銀箔のぼかしのついた色ものの料紙をこれまでずっと使ってきましたが、2年ほど前から白い紙に変えております。

白い紙は余白の部分のごまかしがききませんので、文字の大小、墨の濃淡、行の流れに動きを加えながら、一体感を出すために挑戦しておりました。このたび先生方にお選びいただいたことはとてもうれしく思いました。

書道を始めたのは16歳のときです。自宅の伝言板に何げなく書きつけた字を見た父の勧めで書道教室に通いました。「いろはに…」の基本から始めると夢中になり、大学でもかな書道を学びました。結婚や子育てで一旦、書作を中断しましたが、子育てが一段落した40代で再び大好きな書の世界へ戻りました。

自分の作品はまだまだでありますし、私は未熟者でございます。だからこそ今後も高みを目指して追求できます。これから先も向上心を持って、先に進みたいと思います。先生方、ありがとうございました。

内閣総理大臣賞 松崎龍翠 副理事長

驕らず、たゆまず、大成を期す



内閣総理大臣賞を受ける松崎龍翠さん

栄えある賞を賜りました。選考に当たられた特別選考委員の諸先生をはじめ、産経、そして関係者のご支援、ご引き立てに心から感謝を申し上げます。

小学生の頃、学生書海の塾があり、そこで月例競書に出品したのが書道への第一歩となりました。長じて書家となった私は、師匠からいただいた手紙の末文を心の支えとして、今日まで書に専念してきました。「驕らず、たゆまず、大成を期してください」というものでした。

今回の受賞作では、三国志に登場する英雄の一人である魏の曹操の詩の一部を楷書で書きました。「老驥伏櫪志在千里」（ろうきれきにふすともこころざしせんりにあり）。かつて名馬だった駿馬も、今は年老いて既に伏しているけれども、気持ちとしては「まだまだ千里を走れよう。そういう気持ちに変わりはない」という意味です。私は優れた馬ではないが、自分に先人の思いを重ねて書かせていただきました。

思えば私は第3回産経国際書展で秀作を受賞しました。以来、今日まで多くの人の支えをいただいてまいりました。今回の受賞を機に、さらに研鑽を重ね、いままではご支援いただいた方に恩返しせねばと思っております。産経国際書会の益々の発展を祈念しております。

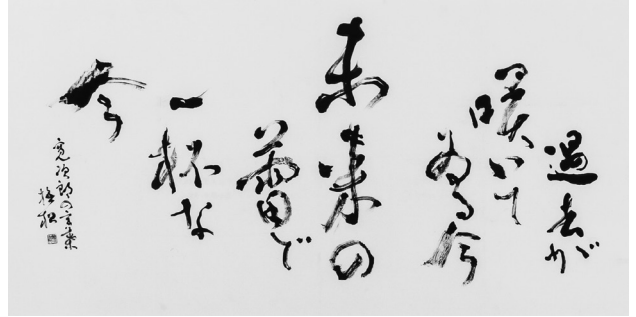


老驥伏櫪志在千里

中国大使館文化部賞

高木撫松 常任顧問

良き師との出会い



河井寛次郎 過去が咲いてゐる今…

書と共に歩んできた人生に、一つの光を当てていただいたと嬉しく受賞に感謝申し上げます。小学校時代に曾祖父より書道への取り組みを、高校時代に生涯書とは何かを求める源になる喜びに出会えたことが、私を書への

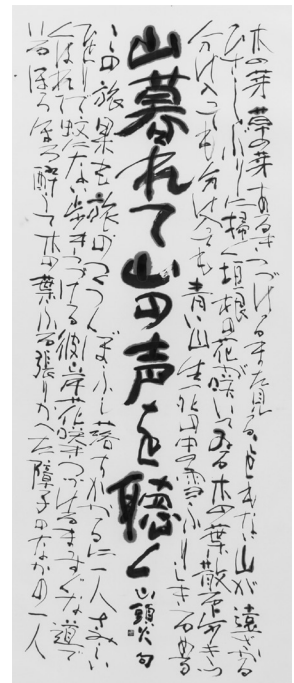
道へと歩ませたのです。良い師に出会えたこと、産経国際書会で出会えた方々に、海游舎での切磋琢磨に、大きな力をいただきました。平和を願って海外へも作品を出品しています。それも私の役目と思うこの頃です。

韓国文化院長賞

小野亭良 常務理事

楽しみながら書く

今回の題材は、明治から昭和にかけて活躍した大好きな俳人、種田山頭火の俳句を選びました。山頭火は自由律の俳人です。作品を読んでいて楽しい気持ちにさせてくれるのが魅力です。私は高校生のとき、学校の書道部に入り、書を始めました。以来、ずっと山頭火の俳句を好んで書き続けてきました。自由に伸び伸びと書く。この精神は今でも変わりません。受賞作の構成も真真中に大きな文字で俳句を配置し、周囲に文を散りばめました。堅苦しい目標などはありません。楽しみながらいい作品を書いていこうと思います。



山頭火 山暮れて…

受賞者 喜びの声 (敬称略)

モンゴル国大使館賞 平本一恵



受賞作は、先日亡くなった仏名優アラン・ドロンの言葉「老いるとは難破船のようなもの」に対して私自身の見解を文にして書きました。歳を重ねても目標を持って生きていきたいと思えます。

ペルー共和国大使館友好賞 高松紅真



産経国際書会で初めての受賞、大変嬉しく思います。ペルー共和国に想いを馳せて、また新たに鍛錬し、制作に励みます。ご尽力下さった皆様、感謝いたします。ありがとうございました。

専管理事優秀賞 大段栄泉



この度は、専管理事優秀賞を賜りまして有難うございました。幼少期より師事した故・美之口起心先生他、諸先生方に心より感謝申し上げます。自分の個性も交えながら今後の書活動に精進してまいります。

理事優秀賞 鈴木蒼



この度は栄ある賞にご推荐くださり、ありがとうございました。審査員や関係者の皆様に深謝申し上げます。今後も精進し、理想とする書を目指します。よろしくお願い致します。

産経国際書会会長賞 島田昌広



昨年の外務大臣賞受賞に続き、2年連続入賞となったが、表現力にまだ足りない点があります。王道の品格のある作品をこれからも書いていきたい。

産経国際書会会長賞 橘黄華



2004年の会友賞受賞も、今回の受賞も、自由に書いた作品が審査の方の感性にマッチして受賞につながったと思います。大変うれしいです。

産経国際書会会長賞 吉田悟



今このように書道に取り組めるのは、家族の理解と支えがあってのことなので、そのことに感謝しながら、いろいろな方へ恩返しや貢献ができる書との付き合い方を志して参りたいと思っています。

産経国際書会理事長賞 佐那



受賞を機に前衛書道の楽しさを世界へ広く発信したいとの思いを強くしました。ほとぼしる自分の内面を書の形にしていくスタイルは変わりません。

国際大賞 三浦希韶



名誉ある賞を頂戴し、胸一杯です。これもひとえに風岡五城先生、壁谷桔華先生はじめ書会の先生方のお陰です。「行住坐臥」を心に留め、受賞を励みに新天地で恩返しできるように精進し続けます。

審査会員優秀賞 石上千曄



喜びより驚きの方が大きい。これから紙に向かう際、私は賞の重みに耐えられるかなと緊張しています。大きな目標を特に設定していませんが、一生懸命に取り組んでいきたいです。

審査会員優秀賞 井上酔生^{すいせい}



「寄傲楽無窮=我が思いのままのことでしているので楽しみもきわまりない」。墨をすり筆もつ時間はまさにそのもの。受賞はこの先もひたむきに紙に向き合うよう背中を押して頂けたように思います。有難うございます。

審査会員優秀賞 大山湯泉



受賞の知らせは思いがけないことで、ただ驚くばかりでした。その後、日を重ねていくうちに、少しずつ実感がわき、喜びの気持ちが強まりました。叱咤激励してくださった指導者や書道仲間
に感謝したいです。

審査会員優秀賞 倉島美瑠



獨り立ち、自立の意味を「獨」に込め、全身全霊で呼吸も忘れ運筆しました。紙が何箇所も破れバラバラに広がった穂先をまとめるように集中して書き上げることができました。今野美晃先生と受賞の喜びを分つことができ望外の幸せです。

審査会員優秀賞 常松昇儼



身に余る賞を頂戴し、大変光栄に存じます。ご指導下さる鈴木曉昇先生をはじめ諸先生方、書友の皆様
に心より感謝申し上げます。この溢れる感謝と喜びを胸に、今後も楽しみながら精進を重ねて参りたいと思います。

審査会員優秀賞 寺田景翠



この度は身に余る賞を賜り、誠にありがとうございました。長年の勝田晃拓先生のご指導の賜と心より感謝申し上げます。今後も試行錯誤を続けながら書作に励み続けたいと思います。

審査会員優秀賞 中村紅舟



いまだに信じられませんが、受賞は大変光栄です。憂いは尽きることがありません。だからこそ李白の詩の明るさに惹かれました。真っ直ぐに書に向き合うことで、納得のいく作品が書けました。書を楽しみながら精進していきたい。

審査会員優秀賞 松永葵心



昨年会った美しい料紙に書き込んだ渾身の1枚が受賞作となり、大変嬉しく思います。今回初めての仮名作品での受賞となり、いろんな分野の字を書かれる村越龍川先生のご指導の賜と深く感謝致しております。これからも一層精進して参りたいと思います。

審査会員優秀賞 松村数範



大変光栄に思っています。私が榮譽ある賞を頂いたのは、故・世木田江山先生が産経国際書展に導いてくださったおかげです。また、書研社の先生方の熱心なご指導の賜物です。心から感謝申し上げます。これからは「自分の書とは何か」という事に向き合いながら、作品創作に一層精進して参りたいと思います。

審査会員優秀賞 宮下信秀



この度審査会員優秀賞をいただき大変光栄に思うと同時に賞の重みを感じています。時に厳しく温かくご指導くださった高橋照弘先生や友人に感謝いたします。更に書技能を高め書活動に積極的に取り組んで参ります。

伊達政宗賞 酒井雅代



昨年の第40回記念賞に続いて伊達政宗賞という大きな賞をいただき、驚きと感激でいっぱいです。受賞に恥じぬよう今後いっそう精進いたします。ありがとうございました。

文部科学大臣賞 上田秀曠



受賞は想定外のことで驚いております。ただ、これを励みにもっと修行を重ね、素晴らしい作品を書こうとの思いも強まりました。ありがとうございました。

外務大臣賞 坂本蒼榮



思いがけず素晴らしい賞をいただき、感動しています。ありがとうございました。受賞作は大作なので、文字の列が左右に曲がらないように書くことが大変でした。

産経大賞 市川鈴雪



この度は榮譽ある賞を賜り、驚きと喜びの気持ちでいっぱいです。日頃らご指導してくださる鈴木曉昇先生をはじめ、諸先生方には大変感謝しております。より一層気を引き締め、一歩一歩努めてまいりたいと思います。

第41回 産経国際書展受賞者(敬称略)

高円宮賞

かな部門 武 富 明 子 (東京都)

内閣総理大臣賞

漢字部門 松 崎 龍 翠 (福島県)

中国大使館 文化部賞

現代書部門 高木 撫松 (埼玉県)

韓国文化 院長賞

現代書部門 小野 亭良 (大阪府)

専管理事 優秀賞

漢字部門 大段 栄泉 (広島県)

理事優秀賞

かな部門 鈴木 蒼 (広島県)

ペルー共和国 大使館友好賞

現代書部門 高松 紅真 (高知県)

モンゴル国 大使館賞

現代書部門 平本 一恵 (東京都)

産経国際書会 会長賞

漢字部門 吉田 悟 (埼玉県)
かな部門 島田 昌広 (広島県)
現代書部門 橘 黄華 (高知県)

産経国際書会 理事長賞

現代書部門 佐 那 (東京都)

国際大賞

漢字部門 三浦 希韶 (愛知県)

伊達政宗賞

現代書部門 酒井 雅代 (宮城県)

審査会員 優秀賞

漢字部門 井上 醉生 (千葉県)
漢字部門 大山 湯泉 (静岡県)
漢字部門 常松 昇儼 (千葉県)
漢字部門 寺田 景翠 (静岡県)
漢字部門 中村 紅舟 (広島県)

かな部門 松永 葵心 (静岡県)
現代書部門 石上 千嘩 (宮城県)
現代書部門 倉島 美瑤 (東京都)
現代書部門 松村 数範 (広島県)
現代書部門 宮下 信秀 (埼玉県)

文部科学大臣賞

〈かな部門〉 上田 秀曠

外務大臣賞

〈漢字部門〉 坂本 蒼榮

産経大賞

〈現代書部門〉 市川 鈴雪

産経準大賞

〈漢字部門〉 栗原 蓮翠

津田 玉華

長瀬 梅昇

〈かな部門〉 後藤 正子

〈現代書部門〉 澤口 貴美江

鶴淵 雅泉

〈臨書部門〉 栗原 昇蘭

無鑑査会員特別奨励賞

〈漢字部門〉 新井 桃坡
伊東 洋子
高橋 岳城
新谷 翠泉
西川 遷石
王 瑩
堀切 清之助

〈かな部門〉 大賀 陽子
〈現代書部門〉 小笠原 玉玲

柏村 明子
鈴木 栖城
野坂 みい
波多野 美麗
〈臨書部門〉 小山 鷺果

太田道灌やまぶき賞

〈漢字部門〉 加藤 香雪
塩原 健作

〈現代書部門〉 藤谷 永翠

太宰府天満宮賞

〈現代書部門〉 原 黄馨

無鑑査会員奨励賞

〈漢字部門〉 伊藤 芳翠
桑 壽香

〈かな部門〉 牧野 友里

〈現代書部門〉 ランディー宗治山本

〈臨書部門〉 新田 裕蛙

会友特別賞

〈漢字部門〉	乾 翠鳳	江口 鶴翠	小俣 紫香	清水 玲飛	半谷 松秀
〈かな部門〉	若宮 舞奏				
〈現代書部門〉	富田 曉玄	中嶋 龍樹	橋本 敦心	平尾 佳瑛	山本 龍子
〈臨書部門〉	深松 華夢				

会友賞

〈漢字部門〉	荒尾 蓉月	安静 圓成	家田 陽水	井垣 希凰	今村 華綏	岩本 京子
	大城 春慶	小田 恵美子	加藤 貫源	上村 尚風	川上 青舟	木坂 京華
	楠 昇殷	小林 多苑	小峯 松鶴	笹岡 慶鳳	佐野 紫風	高橋 遊壽
	竹中 光順	谷 政憲	津田 芳華	津村 昇柊	中村 璣峰	林 薫禎
	林 寄 義信	藤岡 蒼海	松尾 大雅	松田 湖風	松原 山恵	
〈かな部門〉	岩山 淑子	岡本 順子	菊島 克月	坂本 蒼月	鈴木 久江	鈴木 萌園
	利光 竹心	橋本 妙	藤田 姫水	宮村 容玉		
〈現代書部門〉	市川 和子	岩崎 婉水	牛嶋 紅楓	奥城 蒼月	北村 志保	須藤 只煌
	瀬川 永扇	高松 亮子	達家 祥琴	殿村 翠蘭	森田 康仁	矢澤 見左子
	山口 翠婉					
〈臨書部門〉	池田 洋珠	前田 蕙花	横田 明梨	渡辺 昌弥		
〈篆刻・刻字部門〉	長谷川 青峻					

会友奨励賞

〈漢字部門〉	桑 蘭壽
〈かな部門〉	程田 香雪
〈現代書部門〉	林 優里
〈臨書部門〉	早矢仕 郁春

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈現代書部門〉	菊池 嵐舟
---------	-------

愛知県知事賞

〈漢字部門〉	鈴木 翔馬
--------	-------

中国大使館文化部特別賞

〈漢字部門〉	方 建勛
--------	------

産経新聞社賞

〈漢字部門〉	隴西 静美
	吉村 光峰
〈かな部門〉	鈴木 啓心
〈現代書部門〉	渋谷 恵
	手代木 龍也
〈臨書部門〉	山上 隆男

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉	花田 爪現
〈現代書部門〉	鈴木 芳泉
〈臨書部門〉	白川 史代

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉	中原 由季望
〈かな部門〉	津村 芳珠
〈現代書部門〉	内田 陽子

国際賞

〈漢字部門〉	秋田 清蘭
--------	-------

U23大賞

〈漢字部門〉	一木 翔哉
--------	-------

U23奨励賞

〈かな部門〉	浦山 佳奈
	小松 あゆ

第41回 産経国際書展 特別企画

迫力満点、色彩豊かなモンゴル書道

第41回産経国際書展では、個性豊かな特別展示も目玉の一つです。まずは「モンゴル書壇代表作家」のコーナー。モンゴルを代表する気鋭の書家9人が計15点を出品。縦140センチ、横900センチ…とても展示スペースに収まりきらないほどの大きさを持つビャムバジャー氏の「美しい生活」は、鑑賞者に圧倒的なインパクトを与えていました。水色、黒、白、金色、オレンジ色など色彩豊かな作品の数々は、やはり鮮烈な印象を残しました。



清朝最後の文人、呉昌碩の息吹きも

また、呉昌碩と周辺作家の作品を集めた「生誕180年記念 呉昌碩展」も盛況を呈しました。呉昌碩は「清朝最後の文人」と言われ、書、画、篆刻で大きな業績を残した人物です。展示コーナーは日中の書道ファンが詰めかけ、真剣に作品を見入っていました。日本華人文聯主席で、産経国際書会客員顧問の晋嶋氏は「未公開作品も多く、またとない機会」と声を弾ませました。



個性豊かな色紙展

会期中は、今年で16回目を迎える「特別色紙展」が開催されました。会員が高円宮妃殿下からいただいた御題「進」「瞬」を色紙に揮毫し、それぞれの力作55点が展示されました。



第41回 産経国際書展 関連イベント

書道ファン掘り起こしに秘策あれこれ

第41回産経国際書展の会期中、会場では書道の楽しさや奥深さを体感できる3つの興味深い

イベントが東京都美術館で開催され、書道ファン掘り起こしに資する有意義な時間となりました。

前衛書攻略ポイントを伝授

まずは「ー いっしょう先生の前衛書講座 ー『読まないsho 読めないsho』」(8月15日開催)。「難解で分からない」「楽しさを知りたい」…と様々な意見を吸い上げて実現したもので、会場は盛況を呈しました。講師の町山一祥副理事長は楽しむポイントを5点挙げました。

具体的には、①字か否か。分からなければ「そういうものだ」と認識する②作者は立体で見せず、ピカソのキュビズムのように作品を平面で見せる。その絶妙さ加減を楽しむ③文字とタイトルが違う。ただ、タイトルを見て作品理解の手助けとなる④落款印の場所を確認する。作者

は作品をダメにする場所に押すことがままあるため⑤作者に疑問を直接聞けばよいーというものでした。



熱気あふれる会場

18日開催の揮毫会も圧巻でした。展示フロアに敷き詰められた大きな紙に、高円宮賞受賞者の武富明子副理事長(左)、内閣総理大臣賞受賞者の松崎龍翠さん(同)が対峙。大勢の鑑賞者が固唾を呑んで見つめる中、時間をかけ、ゆっくりと、呼吸を整えながら、真剣なまなざしで和歌や隸書、行書を書き込んでいきました。

明治記念館での贈賞式を目前に控えた20日午

前中には、東京都美術館でギャラリートークが開催されました。武富さん、松崎さんに加え、韓国文化院長賞・小野亭良さん、専管理事優秀賞・大段栄泉さん、理事優秀賞・鈴木蒼さん、モンゴル国大使館賞・平本一恵さん、産経国際書会会長賞・吉田悟さんが参加し、自作に込めた思いや制作秘話などを語りました。



2024産経ジュニア書道コンクールを振り返って

今年の展示フロアは、1万3000点超という圧倒的な数の出品作であふれました。それだけに受賞者の皆様は本当に選び抜かれた方たちといえるでしょう。まずは敬意を表し、心からお祝い申し上げたいと思います。

初日には高円宮妃久子殿下も足を運ばれ、じっくりと時間をかけて子供たちの力作をご鑑賞されました。実に有意義な8日間となりました。出品者、ご家族、指導に当たられた先生方、眞田朱燕実行委員長をはじめ実行委員の皆様、審査員の皆様に深く感謝を申し上げます。

どういう作品が入賞するのか。審査員は常に厳正な判断を求められます。作品を見れば分かりますが、書道は「線の芸術」といわれています。線がいきいきとしているか、重厚かつ澄んでいるか…などが判断材料となるでしょう。例えば活気に満ちた線のように、1本の線にもそれぞれ表情があるのです。

高校生になると、中国や日本の古典を学ぶ臨書が課題の一つとなります。今回の応募点数の中にも、高校生は臨書の作品をたくさん出品しておりました。書道を学ぶ上で、やはり臨書は大切なものです。いろんな臨書を学ぶことで、書の線を鍛え、それを自分の中に取り込んでいく。やがては自分でその線を表現できるようになる。臨書はそんな大事なプロセスなのです。

さて、今回の審査も全国から委嘱された30名の審査員によって厳正、公正に審査されました。これだけの優秀な作品を絞りに絞って、最後に受賞作を選ぶのは大変なことです。実力が伯仲している場合は審査員も迷います。でも最終的に選ばれた受賞作を見ると、やはり素晴らしいものでした。今後、出品者の皆様には書道を通して、技術の向上はもちろんですが、人間性も養いながら高みを目指してほしいと願っております。



実行委員会審査長
教育部担当副理事長
松崎龍翠

【審査長】松崎龍翠 【実行委員長・審査員】眞田朱燕

【審査員】大段栄泉、大竹翠葉、大峠仁、岡田崇花、影山瑤琴、勝田晃拓、河口美櫻、郷司翠楓、小谷美環、五戸光岳、今野美晃、佐々木天道、笹山紅樹、末永香雅、鈴木葉光、関根史山、谷蒼涯、玉田子翠、殿村蒼園、長岡輝美、長谷川明扇、藤井玉咲、伏見香蘭、星野葉柳、村越弘鷹、蓑口草川、山地曉翠、連鈴然（敬称略、五十音順）

◎特別賞（中学生以下）

A部門 文部科学大臣賞
ジュニア大賞
東京都知事賞
神奈川県知事賞
埼玉県知事賞
千葉県知事賞
産経新聞社賞

産経国際書会理事長賞
フジテレビジョン賞
ニッポン放送賞

B部門 産経新聞社賞

産経国際書会理事長賞
フジテレビジョン賞
ニッポン放送賞

別所優月（東京都・慶應義塾湘南藤沢中3年）
栗原陽莉（千葉県・松戸市立中部小6年）
児玉結咲（東京都・開智中3年）
樋口若菜（神奈川県・川崎市立南菅小6年）
荻野愛菜（埼玉県・所沢市立富岡小6年）
坂入悠太（千葉県・松戸市立第一中2年）
北村梨愛（京都府・京田辺市立田辺中1年）
今井梨央奈（埼玉県・伊奈町立小針中3年）
平子みのり（福島県・いわき市立泉中1年）
河野真依（香川県・高松市立玉藻中2年）
霧谷咲良（和歌山県・橋本市立隅田中3年）
松村美緒（兵庫県・稲美町立稲美北中1年）
安田紬（岡山県・岡山市立竜操中1年）
西井結惟（岡山県・県立倉敷天城中3年）
梶原咲菜（広島県・福山市立城北中3年）
高野心真（東京都・青梅市立第二中2年）
尾田彩葉（埼玉県・上尾市立西中2年）
片平小春（埼玉県・川越市立高階北小6年）
亀山歩識（新潟県・新潟市立高志中等教育学校3年）
西川堇（神奈川県・横浜市立日吉台小3年）
村松泰征（愛知県・豊田市立崇化館中3年）
物部あさひ（石川県・金沢市立三馬小6年）
藤本歩結（千葉県・松戸市立第一中2年）
江幡和歩（千葉県・山武市立南郷小5年）
栗林美羽（東京都・江戸川区立清新第一中3年）



文部科学大臣賞を受賞した
別所優月さん

◎ジュニア賞（中学生以下）

- A部門** 青木莉央、浅野菜央、安宅絆、阿部陽菜、飯島奈々、池上宙奈、池田梨紗、伊藤悠香、井上礼、猪股愛結、岩井結花、浦野樹、大西麻友、岡田桃華、奥井凜、尾瀬友昭、小畑沙織、片野悠花、河井菜々、川崎莉帆、河野心春、児成優真、小堀みはる、坂田莉子、佐々木玲奈、里居朋実、七條璃子、渋谷日向里、下山莉愛、早乙女凜和、鷹家悠月、高嶋夏帆、高附璃奈、高橋杏樹、武井亜矢、竹田結月、立島和奏、近松美悠、中島有彩、中村斗翔、中屋陽里、西澤凜、畑中美春、八反田真子、林心菜、平野真愛、福永麻央、藤井珠生、藤原綾乃、堀越緋乃、松崎帆花、松下明未、松嶋小華、松永睦美、松永柚乃、的場匠海、三上真央、南美慧、宮原凜、村木こころ、柳田優衣、山田梨央、渡辺菜月
- B部門** 五十嵐乙寧、一木瑛哉、井出千智、稲田千明、上田愛莉、遠藤理久、大須田結衣、大橋桃花、小野寺美桜、加藤衣都、河島茉麻、北崎心音、小林愛歩、小松凜音、坂井来光、澤田璃子、高野心愛、田中莉央奈、田端丈太郎、堤乃愛、中村美涼、野平奏心、花野井愛香、半田風晴、坂東愛香、福井理央、水田そら、宮本笑里、山口未夢、渡邊百香

◎いきいき賞（小学校3年生以下）

- A部門** 飯田愛菜花、伊藤彬人、岩田一花、梅景紗来、大野蒼葵、小川ひかり、笠原蒼煌、梶原彩凜世、河本蒼生、岸田結月、日壁憲人、久保陽大、桑原茉歩、小暮実珠、後藤湊太、古森祐稀、境穂帆菜、塩出実乃里、重弘那岐、志藤桜介、清水暖心、鈴木理子、瀧澤悠花、戸倉川凜、鳥飼奈央、中尾真紘、中根希菜、仲摩果穂、中村映芯、中村ひまり、難波早穂、任梓逸、早川琴葉、東元優佳、蛭間莉菜、藤谷悠月、古橋佳、細川日向汰、松井鍊太郎、松丸夢空、宮脇桃、森咲慈、山中瑛太、若木花歩、渡邊結音
- B部門** 荒木紬、飯坂千穂里、梅本創太、大久保世和、大西斗真、大野莉歩、加藤季子、上島遙真、菊池明夢、菊池心之介、栗原結栴、郷司愛結、小宅夏瑚、齋木このみ、佐藤海音、佐野由之佑、猿谷悠乃、柴田大和、洲崎芽衣、鈴木小街、鈴木麗架、立川潤、對馬幸成、土屋こと、永井佑芽、中島大翔、永田唯莉、中村修平、中村優美菜、西浦舞、西中誠、沼沢慶大、長谷川楓、羽田百合香、古屋さくら、水谷結叶、宮本佳輔、山内結心

◎特別賞（高校生）

- A部門** 産経新聞社賞
伊藤夢七（静岡県・県立浜松湖南高2年）
浦山久実（愛知県・名古屋市立桜台高2年）
神宮弥子（東京都・大東学園3年）
園田颯翔（熊本県・県立御船高2年）
南穂乃花（青森県・県立五所川原高2年）
宮尾明日香（長野県・須坂創成高3年）
産経国際書会理事長賞
小野心丸知（愛知県・至学館高校3年）
- B部門** 産経国際書会理事長賞
堀込紗愛（千葉県・千葉英和高1年）

◎奨励賞（高校生）

- A部門** 有森梨紗、川口祭、座古ちひろ、佐々木あこ、佐野歌、新宅彩耶香、波多江未咲、福田光伶、本間友衣菜
- B部門** 荒川華織、有光由藍、内川李音、岡田夏弥、木村一葉、酒井埜愛、佐々木胡春、澤上南、柴田実穂、渋澤紅那、杉山優人、関莉果、ソロビヨフ小桜、高松響、田沼和、田村夏乃愛、出町龍桜、中根綾香、根本一葵、萩原悠衣、蓮見優、平子誉人、藤本優那、藤原李帆

◎国際部

- 国際友好賞** 蔡昀宸（台湾・中興大学附属中高級農業学校2年）
国際努力賞 安田晴南（シンガポール・UWC Singapore 5年）
陸昱辰（中国・上海韓天衡藝術傳承交流中心5年）
国際いきいき賞 アティークテューバ（神奈川県・プリティッシュ インターナショナル スクール2年）
国際奨励賞 邱翊紘（台湾・台灣苗栗県立三義高級中2年）



席書会に臨む受賞者たち



ワークショップは大盛況

書 展 ト ピ ッ ク ス

渡部美恵子現代書展

●会期 6月26日(水)～30日(日)
●会場 山形・酒田市美術館 市民ギャラリー

渡部美恵子

久しぶりの個展でしたが、現代書の魅力をと、9回目の開催となります。この度は180×270cmの大作2点、掛け軸5点を含め37点の展示でした。「現代書の可能性」をテーマに掲げ制作いたしました。会場には、最高顧問・齋藤香坡先生、高橋照弘理事長、衆雅人事務局長をはじめとして、多くの書会役員の皆様にも遠路おいでいただき、また激励のお言葉もたくさんいただき感謝しております。今後も更なる現代書の在り方を作品制作を通して追求していきたいと思います。



第50回記念宏道書展

山本晴城

●会期 8月20日(火)～25日(日) ●会場 名古屋・電気文化会館ギャラリー



草創期の産経国際書展を支えた父、山本宏城が創設した宏道書会の展示会も今年で50回目を迎えました。平成5年に宏城が死去後、45歳の若さで宏道書会を牽引してきたのが風岡五城先生で、宏道書会の礎を築いていただきました。感謝の念に堪えません。先代宏城も喜んでいていると思います。2009年、私こと晴城が代表を受け継ぎ、現在に至ります。力を合わせて頑張っていきたいと思います。

書道の大家、小川瓦木氏の石碑「雲」建立

産経国際書会の創設会員として中核を担った書道の大家、小川瓦木氏(平成12年、89歳で死去)の代表作「雲」の石碑が6月9日、故郷・千葉県白井市の同市文化センター庭園に建立されました。除幕式では、白井市長、伊藤富博会長代行をはじめ総勢52人の書会関係者が出席。「雲よ、大空へ舞い上がれ!」の掛け声とともにその全容を披露しました。碑陰には町山一祥書による功績文が記されています。



2024秋季研修会 10月12～13日、国立新美術館講堂で

10月12、13の両日、国立新美術館(東京都港区六本木)の3階講堂で「2024秋季研修会」が開催されます。今回は、漢字の臨書から、仮名(古筆)の臨書に学習範囲を広げ、さらに漢字と仮名の組み合わせである調和体にも触れます。講師は、青木錦舟副理事長、伊藤春魁常務理事、鎌田悠紀子常務理事、谷蒼涯専管理事が担当します。問い合わせは産経国際書会事務局 03-3275-8902

谷蒼涯氏、「墨」で大字かなの創作法を説明

「2024秋季研修会」(10月12～13日、東京・国立新美術館)でかな文字の表現方法をテーマに講師を務める谷蒼涯専管理事が、書道雑誌「墨」(9・10月号、参考価格2700円)に登場し、現代書家の1人として大字かなの表現のポイントなどを紹介しています。



第41回 産経国際書展“新春展”募集要項

開催・出品要項(概要) ※搬入締切:令和6年11月15日(金)

【名 称】第41回産経国際書展“新春展” 【主 催】産経国際書会、産経新聞社
 【会 期】令和7年1月22日(水)～2月3日(月)
 【会 場】国立新美術館 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
 【入場料】500円 (障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および大学生以下は無料)

《新春展Ⅰ》

【寸 法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。
 全紙以上。参与以上は全紙以下も可。篆刻、
 刻字、卷子・折帖作品は上記サイズ外。

【搬 入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料を
 添えて指定表具店へ。

【出 品 料】①5万円＝産経国際書会の役員(最高顧
 問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、
 参与、理事長、理事長代行、副理事長、常
 務理事、専管理事、理事、監事、評議員)
 ②3万円＝審査会員、無鑑査会員

《新春展Ⅱ》公募部門

【出品資格】満18歳以上(会友含む)

【寸 法】半切タテヨコ(135cm×35cm)、全紙2分の
 1(70cm×68cm)

【出 品 料】2万円 【審 査】12月6日(金)

【 賞 】会友の部：会友奨励賞(賞状、副賞)、公
 募の部：産経新聞社賞(賞状、副賞)、奨
 励賞(賞状、副賞)

【贈 賞 式】(予定)令和7年2月1日(土)午後4時～
 明治記念館

【作品送付先】〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台
 7-51-12 藤和額装株
 T E L 045-833-5273

【問い合わせ】産経国際書会事務局 T E L 03-3275-8902 F A X 03-3275-8974

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和6年10月～7年1月〉

展覧会名	会期	会場	社中名・代表
第3回利根川秀佳書道教室展	10月1日(火)～10月6日(日)	東京・好文画廊	利根川秀佳書道教室・利根川秀佳
第10回方琥書院書画展	10月3日(木)～10月8日(火)	大阪・茨木市立ギャラリー	方琥書院・久田方琥
第30回龍峽書道会蘭契展	10月8日(火)～10月13日(日)	銀座鳩居堂画廊	龍峽書道会・林龍成
第34回書心会書展	10月11日(金)～10月13日(日)	埼玉・所沢市民文化センター ミュージズ	書心会・加藤深流
第37回瑤樹会書展	10月11日(金)～10月14日(月)	埼玉・マルイファミリー志木	瑤樹会・岡村公裕
第1回明扇書藝會展覧会	10月11日(金)～10月14日(月)	長野県立美術館	明扇書藝會・長谷川明扇
第53回千墨書道展	10月16日(水)～10月21日(月)	東京・品川区民ギャラリー	千墨書道会・近藤豊泉
第49回煌心同人書展	10月17日(木)～10月20日(日)	銀座かねまつホール	煌心書道会・松崎龍翠
第39回日本綜合書作院展	10月17日(木)～10月20日(日)	大阪・ベルマージュ堺式番 館2～3F堺市立文化館	日本教育書道院・篠原秀朋
第48回布穀会展	10月18日(金)～10月20日(日)	東京・有楽町朝日ギャラリー	布穀会・牛嶋紅楓
第70回あしで會選抜書作展	10月25日(金)～10月27日(日)	兵庫・尼崎市総合文化セン ター「美術ホール」	あしで會・今口鷺外
第56回一煌会書展	10月25日(金)～10月27日(日)	東京・マロニエ通り 銀座館ギャラリー	一煌会・小川艸岑
創立50周年記念 宏道書会代表展	10月25日(金)～10月29日(火)	東京・有楽町朝日ギャラリー	宏道書会・山本晴城
第22回書道五月女紫映社中展	11月3日(日)～11月6日(水)	東京交通会館	書道五月女紫映・五月女紫映
第37回研友社展	11月4日(月・祝)～11月9日(土)	東京・小津ギャラリー	書法研究 研友社・金丸鬼山
第41回硯田社書展	11月5日(火)～11月10日(日)	高知市文化プラザかるぼーと	硯田社・橘黄華
第15回記念「書・墨・アート Vol.15 渡邊麗・渡邊麻衣子展」	11月6日(水)～12月1日(日)	東京・杉並芸術会館 座・高円寺	誠心社・渡邊麗
黄龍の書	11月9日(土)～11月10日(日)	京都・大徳寺 黄梅院	諸留大穹
第47回 公募 梓会書道展	11月12日(火)～11月17日(日)	愛知県美術館ギャラリー	書道研究梓会・伊藤春魁
第49回 全国公募 日輝展	11月19日(火)～11月24日(日)	東京都美術館	日輝会美術協会・阿相三郎
第43回東西書展	11月20日(水)～11月24日(日)	東京・好文画廊	東西書芸会・鈴木曉昇
第29回秋桜会書展	11月28日(木)～12月1日(日)	東京・銀座大黒屋ギャラリー	秋桜会・鎌田悠紀子
第34回遊心書道会書展	11月29日(金)～12月1日(日)	広島県民文化センター	遊心書道会・大庭清峰
第41回記念 CMO展・近畿席書大会	11月30日(土)～12月1日(日)	大阪・藤井寺市立市民総合会館	近畿席書会・正川子葉
第28回東華役員展	12月3日(火)～12月8日(日)	東京・銀座ギャラリー向日葵	現代清風会・齊藤華秀
第20回日本藝術文化環境書道展	12月6日(金)～12月8日(日)	さわか千葉県民プラザ	日本書蒼院・谷蒼涯
心芸墨美作家協会 2024選抜展	12月9日(月)～12月15日(日)	東京都・銀座セントラル ミュージアム美術館	心芸墨美作家協会・岩浅写 心
第19回埼玉県書作連盟展	12月13日(金)～12月15日(日)	埼玉・埼玉会館	埼玉県書作家連盟・谷蒼涯
第45回國藝展	12月20日(金)～12月25日(水)	鎌倉芸術館	國際藝術家協會・齊藤香坡
第41回雅涎会書展	令和7年1月6日(月)～1月11日(土)	東京・有楽町朝日ギャラリー	雅涎会・宮負丁香

追 悼

次の先生が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

顧 問	小名雪王(令和6年5月)	会 友	五味尊子(令和6年8月)
評 議 員	加藤石泉(令和6年8月)	会 友	三木育苑(令和6年9月)
無 鑑 査	丹下頌翠(令和6年8月)		

編 集 後 記

処暑を過ぎても、この猛烈な暑さでは秋はまだ先のようです。集中豪雨、雷とともに、線状降水帯による被害に遭われた方々も多かったことでしょう。

この猛暑の中で、第41回産経国際書展が東京都美術館で開催され、会員の熱い思いと、回を重ねるごとに高まる確かな作品の力量を感じさせる作品群は誠に見事なものでした。

ちょうど重なったパリ五輪では、日本選手団が素晴らしい好成績を残し、心に温かく響きました。翻って第41回展で各賞を受賞された先生方、誠におめでとうございます。益々のご健筆、指導・育成での活躍を心より願っております。

今年は特別展示「モンゴル書壇代表作家展」や生誕180年記念「呉昌碩展」も実施され、新鮮な感じを受けました。今回、大変心強く思いましたのは、2024産経ジュニア書道コンクールの出品数の増加です。これからの書会に明るい未来を感じさせました。

心より今後のご盛況をお祈り申し上げます。これからも会員皆さんの温かい思いを寄せ合って、益々書展を盛り上げてまいりたいと思います。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和6年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

<https://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
ホームページ

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。